



リレー随想

ベトナムの魅力

日本薬品工業株式会社
代表取締役社長 嶋田 隆

リレー随想到稿するのも今回で4回目となり、時の流れの速さを実感しております。これまでの3回は、私の郷里である北海道・網走市を紹介させていただきました。網走は知床半島の入口にあたる北海道北東部に位置しており、人口約3.7万人の市です。流氷でも有名なオホーツク海と根室海峡に挟まれた知床半島は、2005年に世界自然遺産に登録されました。歌手・加藤登紀子さんの名曲「知床旅情」にも歌われた知床岬があり、自然の偉大さや奥深さ、美しさも厳しさも丸ごと体感できる野生の聖地とされています。私の郷里・網走や知床のご紹介もこれが最後となりますが、北海道旅行の機会には是非、雄大な最果ての地へ足を運んでいただければと思います。



さて、話は変わりますが、我々日本ケミファグループは、ベトナムのホーチミン市郊外にある工業団地内に今年3月、新工場を建設いたしました。そのため、最近ではベトナムに行く機会が増えており、その度にベトナムの魅力を強く感じております。私の観点からベトナムについて簡単にご紹介させていただきます。

ベトナムの正式名称は「ベトナム社会主義共和国」。首都はハノイで、公用語はベトナム語です。人口は約9000万人で年々増加しているそうです。ベトナムを訪れてみて、若者が多く、活気のある国だと感じました。現在の平均年齢は28歳とのことで、街中であまり高齢者を見かけない印象です。平均年齢46.4歳(2015年、総務省統計局)で少子高齢化が進む日本とは正反対の人口構成に驚きました。

首都はハノイですが、人口はホーチミンの方が約100万人多く、現在高度成長期にあるベトナム経済を牽引しています。また、近年は急激な経済成長、交通量の増加等により大気汚染が深刻化しているようです。

かつてフランスの統治下にあったホーチミンには「コロニアル建築」という様式で造られた歴史的建造物が多く残されています。1886年に造られた中央郵便局、フランス統治時代に建築された市民劇場、パリの面影を残したコンチネンタルホテルなどが代表的ですが、街を歩いていると小さなお店でも様々な特徴があり、我々の目を楽しませてくれます。特に、1914年設立と歴史あるベントイン市場は時計台の形をした入口があり、この中に地元の青果物、珍しい食品、衣類、服飾品など、1000以上のお店が集まり、人々の生活がそのままぎっしり詰まっています。夕方以降はこの市場の周辺に屋台が並ぶ夜市となり、さらに賑わいを増します。

また、ベトナムといえば食べ物も魅力的です。日本でもよく食べられている、米粉麺のフォーや、生春巻きなどのベトナム料理のほかにも、フランスパンにレバーパテを塗り、ハムや野菜の甘酢漬けを挟んだベトナム風サンドの「バイン・ミー」、米粉の皮に豚肉や海老、野菜が入ったお好み焼き「バイン・セオ」、鶏肉のお粥にちぎった揚げパンを入れて食べる朝ごはんの定番「チャオ・ガー」などがあります。さらに、練乳が入った濃厚な味わいのベトナムコーヒー、フルーツや小豆などが入ったぜんざいのような「チェー」など、デザートやドリンクも独特のものが数多くあるようです。

国内各地に地ビールがあるベトナムは、お酒の時間も独特です。「モッ、ハイ、バー、ヨ〜！」が日本の乾杯のような掛け声ですが、遅れて人が来たら乾杯、目が合ったら乾杯、と、ベトナムの方は乾杯を何度も繰り返します。ですので、現地の方とお酒を共にする場合は飲みすぎに注意してください。

仕事柄ベトナム人の方と交流する機会がありますが、皆さん勤勉で向上心が旺盛です。また、朗らかで笑顔の方が多く、日本人も親しみやすい人柄だと感じました。

以上、今回ご紹介させていただいた通り、親しみやすい国民性、独特で魅力的な街並みや文化が存在するベトナムは、一度訪れると魅了され、より深く知りたい、と感じる場所です。東南アジア諸国は発展が目覚しく、どの国も興味深いかとは思いますが、是非一度、ベトナムを訪れてみてください。